

# 久留米市セーフコミュニティ 外傷等動向調査委員会

発表日 2019年10月23日  
発表者 外傷等動向調査委員会

# 1-1.外傷等動向調査委員会の設置

2011年(H23年)	7月	セーフコミュニティ取り組み宣言
2011年(H23年)	9月	セーフコミュニティ推進協議会設置
2011年(H23年)	11月	重点取り組み6分野・10項目の決定
2012年(H24年)	3月	各対策委員会設置
2012年(H24年)	7月	外傷等動向調査委員会の設置

【久留米市セーフコミュニティ推進協議会設置要綱第9条】

外傷等の発生動向データの分析を行い、対策委員会等と連携を図りながら、予防活動の効果・影響等を測定・評価を行なう

## 1-2.外傷等動向調査委員会の構成メンバー

区分		所属
医療機関	1	久留米大学 医学部教授
	2	一般社団法人久留米医師会 理事
	3	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院救命救急センター長
関係機関	4	久留米広域消防本部 救急防災課長
行政機関	5	久留米市保健所 所長
	6	久留米市協働推進部 部長

# 1-3. 外傷等動向調査委員会の位置付け

分野の垣根を越えた連携・協働によってS Cを推進

- S Cの基本方針の協議・決定
- 全市的な連絡調整 など

久留米市セーフコミュニティ推進協議会

外傷等動向調査委員会

重点取り組み分野の対策委員会

交通安全

児童虐待防止

学校安全

高齢者の安全

防犯

D V防止

自殺予防

防災

セーフコミュニティ推進本部会議

- I .けがや事故のデータ収集や分析
- II .取り組みの効果や影響などを測定・評価 など

- 具体的取り組みの検討
- 既存取り組みの改善
- 新たな方策等の検討 など

- 行政としてS C取り組み方針等の決定 など

# 1-4.外傷等動向調査委員会の役割

外傷等動向調査委員会のデータ収集・分析により、対策委員会が行う具体的取り組みの効果が拡大、継続へと繋がる

久留米市セーフコミュニティ推進協議会

II.取り組みへの評価支援

## 外傷等動向調査委員会

I.けがや事故の収集・分析

【主な外傷データ】

- ①人口動態統計
- ②救急搬送データ
- ③医療機関アンケート※
- ④ケガや事故の実態調査
- ⑤市民意識調査 など

※認証取得後新たに収集・分析

II.効果や影響などの測定・評価

施策の成果

報告

決定

## 対策委員会

ACTION  
改善

PLAN  
活動方針

- 現状の把握
- 原因の分析
- 課題の明確化
- 具体的施策の整理
- 具体的施策の評価
- 具体的施策の改善検討
- 新たな目標設定
- 更なる改善を検討

CHECK  
効果確認

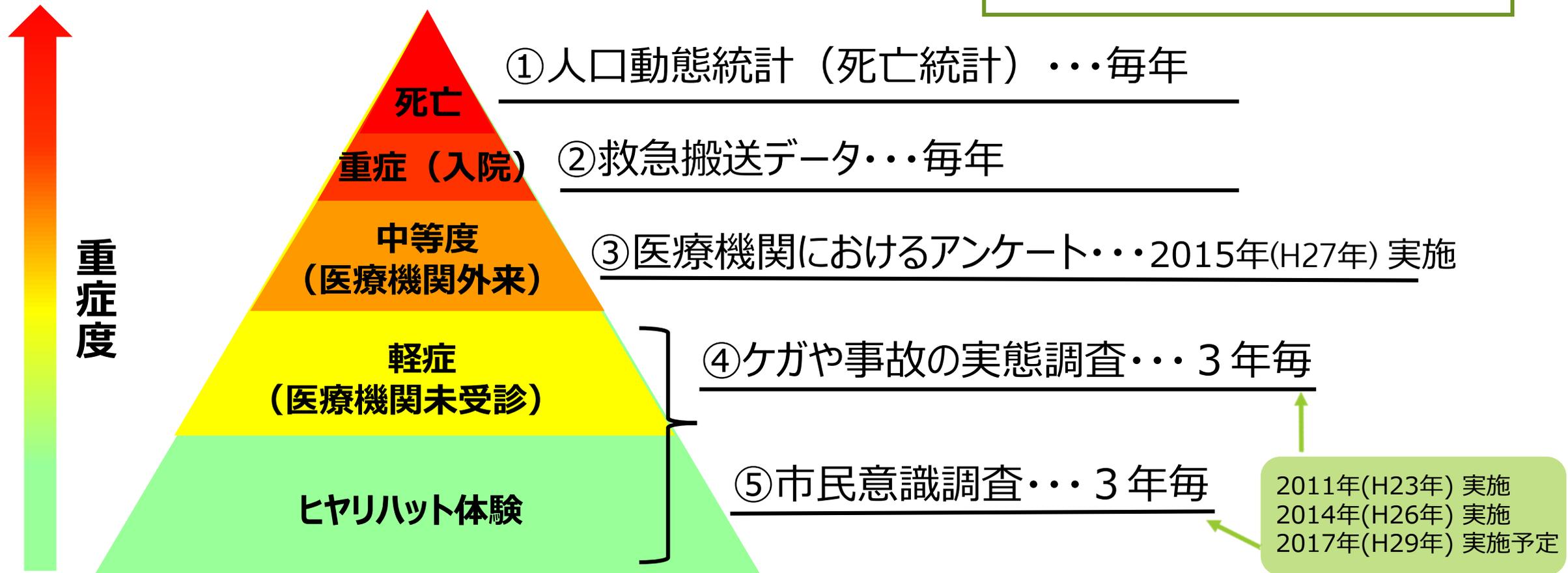
DO  
活動の実践

取り組みの効果が拡大

持続可能な仕組み

## 2-1. 外傷データの収集・分析【重症度との関係性】

外傷の重傷・軽傷にかかわらず、  
日常生活で起こる外傷の状況を把握



## 2-2.外傷データの収集・分析【人口動態統計（病気を除く）】

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水	交通事故			
10～19歳	自殺	交通事故	転倒・転落		
20～29歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	煙・火	
30～39歳	自殺	交通事故	中毒等	転倒・転落	他殺
40～49歳	自殺	交通事故	中毒等	溺死・溺水	転倒・転落
50～59歳	自殺	交通事故	溺死・溺水	窒息	その他不慮の事故
60～69歳	自殺	溺死・溺水	交通事故	窒息	転倒・転落
70～79歳	溺死・溺水	自殺	窒息	転倒・転落	交通事故
80～89歳	溺死・溺水	窒息	その他不慮の事故	転倒・転落	自殺
90歳～	転倒・転落	窒息	溺死・溺水	その他不慮の事故	交通事故

死亡の原因となった外傷のうち、「自殺」が最も多く、次いで「交通事故」が多い

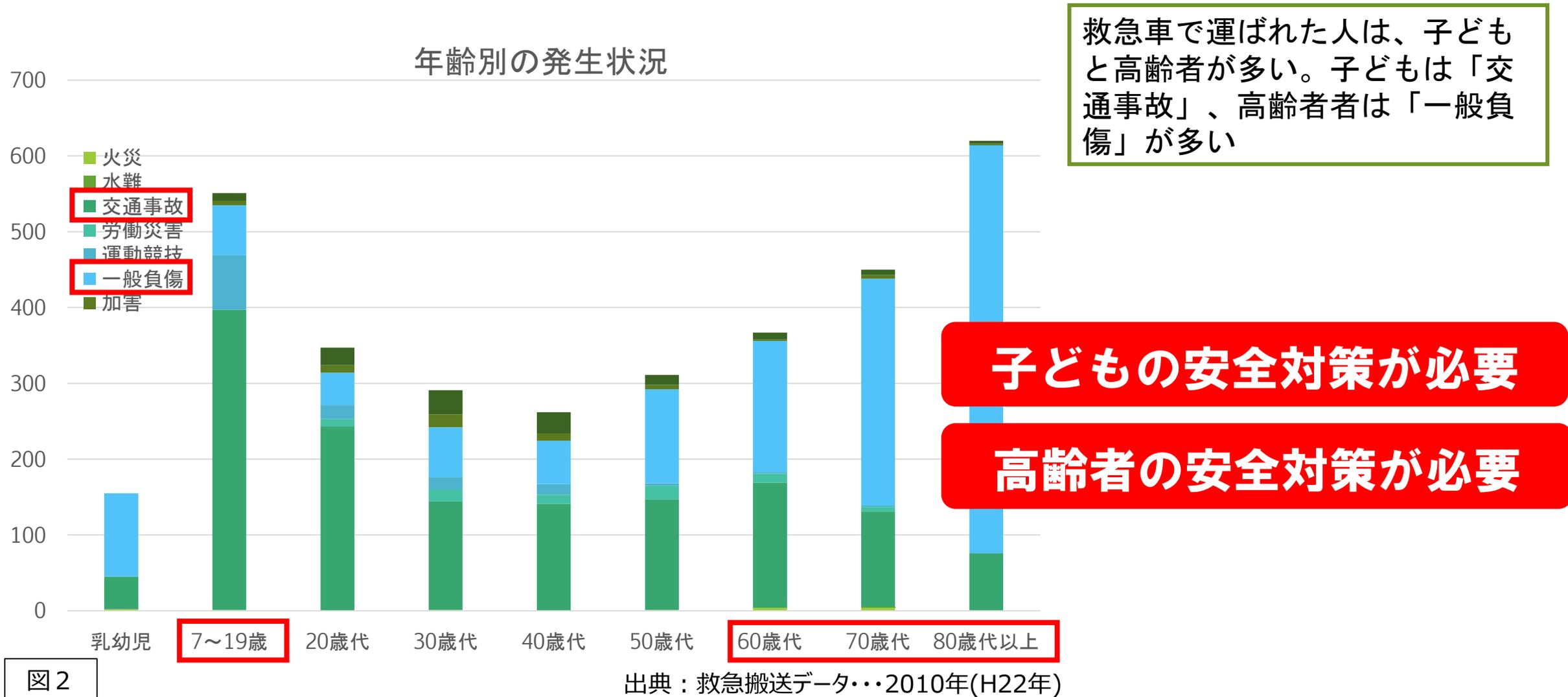
図1

出典：人口動態統計 2007年(H19年)～2011年(H23年)

**自殺予防の取り組みが必要**

**交通安全の対策が必要**

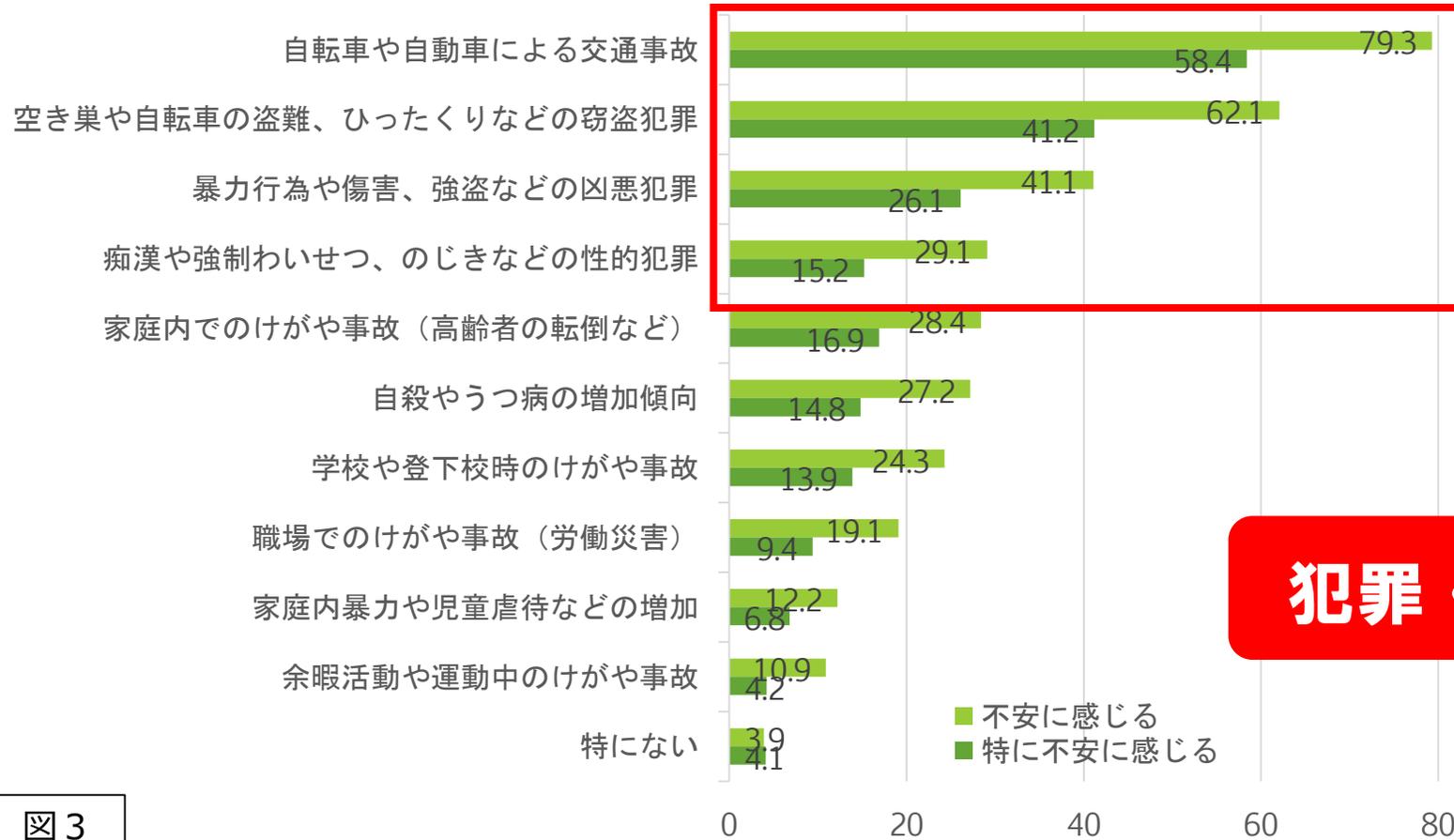
## 2-3.外傷データの収集・分析【救急搬送データ】



## 2-4.外傷データの収集・分析【市民意識調査①】

Q.普段生活する中で不安を感じることは何ですか？

「交通事故」や「犯罪」への不安が高い



**犯罪・暴力の予防が必要**

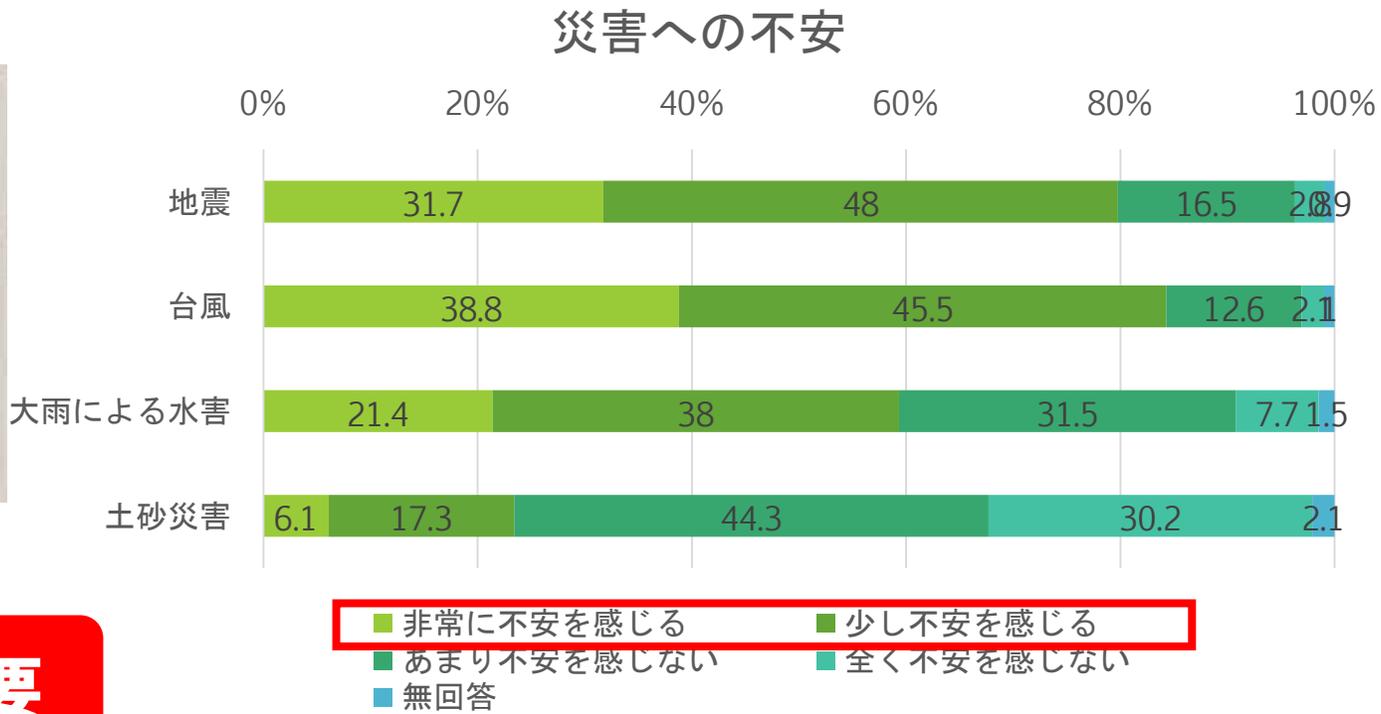
出典：市民意識調査2011年(H23年)

図3

# 2-5.外傷データの収集・分析【市民意識調査②】



近年多発する自然災害により、災害への不安を感じる人が約8割。特に、地震・台風への不安が高い



不安を感じる	不安を感じない
79.7	19.3
84.3	14.7
59.4	39.2
23.4	74.5

**防災対策が必要**

図4

出典：市民意識調査2011年(H23年)

# 2-6.外傷データの収集・分析【統計データの活用状況】

外傷データをはじめ様々な統計データを活動指標として活用している

	外傷等動向調査委員会で収集・分析					各対策委員会で収集・分析												
	①人口動態統計	②救急搬送データ	③医療機関におけるアンケート	④ケガや事故の実態調査	⑤久留米市民意識調査	警察統計	自転車の安全利用に関するアンケート	次世代育成に関するニーズ調査	家庭子ども相談課集計データ	福岡県久留米児童相談所集計データ	学校災害給付請求データ	保健室けが調べ	生徒への安全アンケート調査	高齢者実態調査	長寿支援課統計資料	男女平等推進センター相談の状況	男女平等に関する市民意識調査	厚生労働白書
交通安全	●	●	●	●	●	●	●											
児童虐待	●	●	●	●	●			●	●	●								
学校の安全	●	●	●	●	●					●	●	●						
高齢者の安全	●	●	●	●	●								●	●				
防犯	●	●	●	●	●	●												
DV防止	●	●	●	●	●				●							●	●	
自殺予防	●	●	●	●	●													●
防災	●	●	●	●	●													

# 2-7.外傷データの収集・分析【結果】

主な外傷データの分析を「根拠」にSCの重点取り組み決定

## 6分野・10項目を決定



重点取り組み6分野	重点取り組み10項目
1. 交通安全	① 高齢者の交通事故防止 ② 自転車事故の防止
2. 子どもの安全	③ 児童虐待の防止 ④ 学校の安全
3. 高齢者の安全	⑤ 転倒予防 ⑥ 高齢者虐待の防止
4. 犯罪・暴力の予防	⑦ 犯罪の防止・防犯力の向上 ⑧ DV防止・早期発見
5. 自殺予防	⑨ 自殺・うつ病の予防
6. 防災	⑩ 地域防災力の向上



# 3-1. 外傷データ収集・分析における課題

## ① 人口動態統計

⇒ 死亡に起因するデータのみ

(例) 日常生活で起こりやすい外傷が含まれない

## ② 救急搬送データ

⇒ 比較的重症のデータに偏る

(例) 救急車を必要としない、軽症な外傷が含まない

## ③ ケガや事故の実態調査

⇒ 回答者の記憶が曖昧である

(例) 過去におきたケガや事故を調査しているため、ケガした場所・原因を覚えていない

## ④ 市民意識調査

⇒ 20歳以上が対象

(例) 子どもを対象とした調査ができない

## 3-2.外傷データ収集・分析における課題

### 課題解決に向けた新たな外傷データの収集・分析

- ① 日常的に起こる外傷データ
- ② 信憑性を高めるデータ
- ③ 活動指標へ有効活用できるデータ
- ④ 全ての年齢層を対象にしたデータ

## 4-1-1.新たな取り組み（認証取得後）

### 検討結果

- ・他の認証自治体を参考に、医療機関を訪れる患者・医師への調査
- ・患者、医師への負担を軽減する調査
- ・協力いただける医療機関での調査

### 医療機関におけるアンケートの実施

### 負担軽減の工夫

#### 【患者側】

- ・これまで収集・分析したデータを元に、回答が多い順に質問項目を記載
- ・記述式ではなく番号からの選択式

#### 【医師側】

- ・記述式ではなく番号からの選択式
- ・身体の部位に分けて番号を記載

記入する手間を省く

# 4-1-2.新たな取り組み（認証取得後）

## 調査概要

- ・2015年(H27年) 10月～12月（3ヶ月）
- ・整形外科、外科などの5医療機関
- ・自主外来した初診の患者
- ・患者：けがの原因・場所・行動など
- ・医師：傷病名・傷病部位など
- ・回答数：261件

久留米市 セーフコミュニティ推進協議会 調査票（初診時）

久留米市では、事故やけがを予防するセーフコミュニティ活動を推進しており、医療機関のご協力を得て、市民を含む内外関係者の方からアンケート調査を実施しております。この調査結果は、管内に上る分析を踏まえ、事故やけがの予防対策に活用してまいりますので、ご協力をご協力をお願いいたします。

ご協力いただける場合には、表面は受取者、裏面は医師によるご記入をお願いいたします。（受取者の付き添いの方が記入しても構いません。）この調査票では個人情報はお聞きしません。また、結果は統計処理をいたしますので、個人が特定されることはありません。なお、記入が難しい項目については、空欄のままでも結構です。

今日の日程 年 月 日

年齢	性別	住所	けがをした場所
歳	男・女	久留米市内・久留米市外	久留米市内・久留米市外

受診された医療機関までの交通手段

場所：自動車・バイク・タクシー・バス/スクーター・車・自転車

① いつけがをしましたか？

年 月 日（曜日） 午前・午後 時 分

② どこでけがをしましたか？（○で囲んで、具体的な内容を書いてください。）

1.自宅（居間） 2.自宅（寝室） 3.自宅（風呂） 4.自宅（階段） 5.自宅（玄関） 6.自宅（台所）  
7.自宅前 8.学校 9.道路・歩道 10.動物車 11.仕事先の現場 12.商業・販売施設  
13.運動・スポーツ施設 14.その他（具体的に）

③ けがをしたとき、何をしていますか？（○で囲んで、具体的な内容を書いてください。）

1.買い物を含む家事 2.通勤・仕事 3.散歩 4.自転車運転 5.バイク運転 6.自動車運転  
7.運動・スポーツ 8.入浴 9.通学・教育 10.趣味・遊びなど余暇活動  
11.その他（具体的に）

④ けがをした原因、きっかけは何ですか？（○で囲んで、具体的な内容を書いてください。）

1.道路や物につまづく 2.濡れた場所で滑る 3.ふらついた 4.上を見、おかしな足をする 5.ぶつから  
6.気づかぬまま 7.操作を誤る 8.身を振り出す 9.異動を飲む 10.けんかをする  
11.その他（具体的に）

⑤ その結果、どのようにけがをしましたか？（○で囲んで、具体的な内容を教えてください。）

1.転倒 2.交通事故 3.接触・衝突 4.転落 5.はさまれた 6.鋭利なものへの接触  
7.火傷 8.物の落下 9.その他（具体的に）

⑥ 受けたけがに關したモノがあれば、それは何ですか？（○で囲んで、具体的な内容を教えてください。）

1.段差や6 2.靴・履物 3.濡れた床 4.自転車 5.自動車 6.ベッド・椅子 7.ドア・扉  
8.家具・家電 9.遊具 10.調理器具 11.キッチンや飲料などの 12.動物  
13.その他（具体的に）

⑦ けがをしたとき、何らかの安全策がとられていましたか？（○で囲んで、具体的な内容を教えてください。）

1.まずり 2.降り止め 3.ヘルメット 4.転落防止帯 5.踏み跡を 6.踏つのみ  
7.その他（具体的に）

医師記入欄

医療機関名

またも診察科	1.外科	2.整形外科	3.形成外科	4.脳神経外科	5.その他
--------	------	--------	--------	---------	-------

傷病名の高い順に、上位3つの傷病名と傷病部位の番号をご記入ください

傷病名	傷病部位
1.	
2.	
3.	

傷病名		傷病部位	
1.骨折	6.全身	7.顔面	17.胸部(胸郭)
2.脱臼	8.全身	8.顔面	18.胸部(胸郭)
3.挫傷・擦傷	9.顔面	9.顔面	19.背盤・尻生離部
4.内臓損傷	10.顔面	10.顔面	20.背・上腕
5.頭外傷	11.顔面	11.顔面	21.背盤・尻生離部
6.切創	12.顔面	12.顔面	22.背・上腕
7.血管の損傷	13.顔面	13.顔面	23.肘・前腕
8.打撲傷	14.顔面	14.顔面	24.手背・手首
9.挫傷・圧迫・擦傷	15.顔面	15.顔面	25.その他
10.熱傷	16.顔面	16.顔面	
11.神経の損傷	17.顔面	17.顔面	
12.中毒・熱射	18.顔面	18.顔面	
13.溺水	19.顔面	19.顔面	
14.窒息	20.顔面	20.顔面	
15.その他	21.顔面	21.顔面	

処置見込

1.治療不要	2.即日帰宅完了	3.要通院
4.要入院	5.転院へ入院	6.その他

# 4-1-3.新たな取り組み(認証取得後)

## 調査結果①

2015年(H27年)

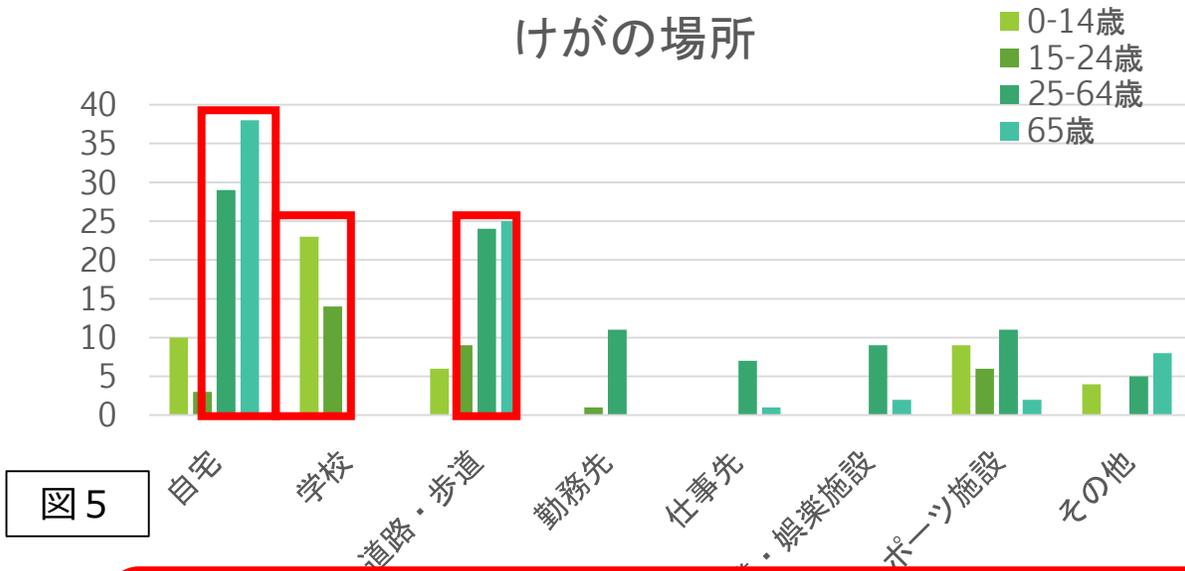


図5

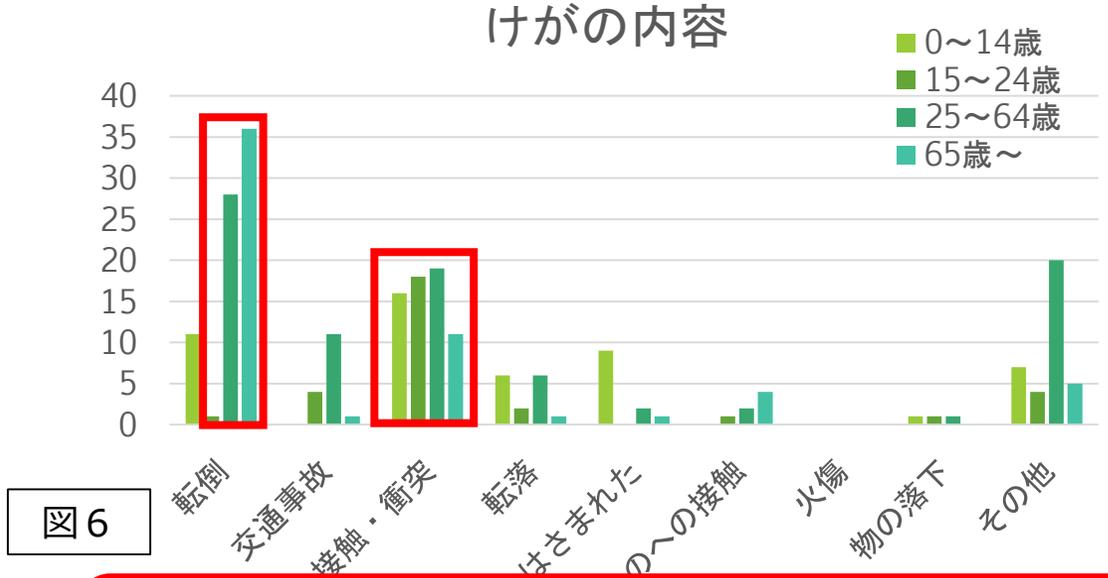


図6

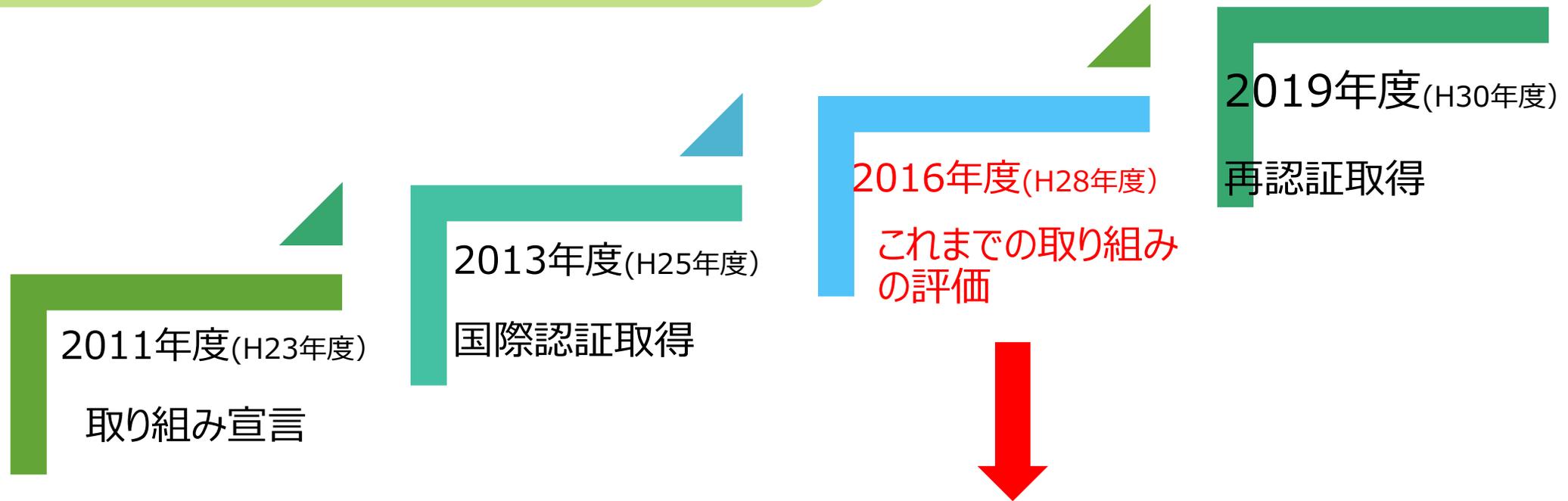
子どもは「学校」、高齢者は「自宅」「道路・歩道」が多い

高齢者は「転倒」、「接触・衝突」はどの年齢層にも多い

ケガの場所・内容は「ケガや事故の実態調査」と同様の結果

## 4-2-1.新たな取り組み（認証取得後）

### 取り組み分野・項目などの見直し



取り組みを開始した2011年度(H23年度)と最新の外傷データを比較・分析し、これまでの取り組みの効果・影響などを評価

## 4-2-2.新たな取り組み（認証取得後）

### 取り組み分野・項目などの見直し

外傷データの収集・分析結果、「けがや事故、自殺」の件数は減少傾向にあり、一定の効果が出ている。

この効果を更に拡大していくために、6分野10項目は、今後も継続して取り組んでいくことが必要。

外傷データ結果やその他の各種データをもとに、対策委員会毎に、これまでの取り組みの成果・課題を踏まえた見直しを実行。

## 4-2-3.新たな取り組み（認証取得後）

### 対策委員会の具体的施策の見直し

新規・・・4施策  
削除・・・4施策  
拡充・統合・・・16施策

2011年度(H23年度)～2016年度(H28年度)

分野	項目	具体的施策
6	10	48



2017年度(H29年度)～

分野	項目	具体的施策
6	10	42

## 4-2-4.新たな取り組み（認証取得後）

### 対策委員会（具体的施策）へのアドバイス

【交通安全対策委員会】  
交通安全マップの作成



【防犯対策委員会】  
安全マップの作成



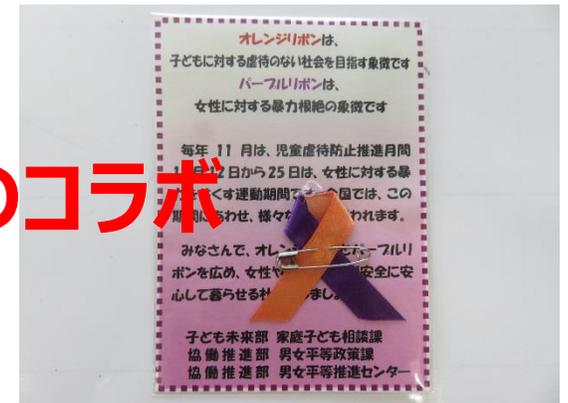
安全安心マップ

【児童虐待防止対策委員会】  
オレンジリボン作成



【DV防止対策委員会】  
パープルリボンキャンペーン

リボン・啓発のコラボ



# 4-3-1 新たな取り組み（認証取得後）

## ケガや事故の実態調査の見直し

課題③活動指標への有効活用  
課題④全ての年齢層をカバーするデータの収集に向けた検討

**短縮**

**具体的施策（短期・中期）  
指標にリンクする質問へ**

実施年	2011年(H23年) 実施	2014年(H26年) 実施	2017年(H29年) 予定
調査名称	ケガや事故の実態調査	ケガや事故の実態調査	セーフコミュニティ実態調査
対象期間	過去3年間のケガや事故	過去1年間のケガや事故	過去1年間のケガや事故
調査対象者	市内の満20歳以上の人	市内の満20歳以上の人	①0歳～17歳の人 ②18歳～64歳の人 ③65歳以上の人
回収率	57.0%	56.0%	-

**全ての年齢層をカバー**

## 4-3-2.新たな取り組み（認証取得後）

### ケガや事故の実態調査の見直し

2017年度（H29年度）実施の「セーフコミュニティ実態調査」は11月末に速報値の公表予定。

調査結果は、2018年度（H30年度）の活動指標へ。

## 5-1.現在の課題と今後の方向性

### ① 具体的施策に活用できる有効データの収集・分析



先進自治体の事例研究・継続的な収集・分析の構築  
**短期・中期指標への活用**

### ② 対策委員会との連携



**更なる連携強化・情報共有**